

池田市

Ikeda City

| | | |
|----------|--------|-------|
| 総人口 | 在留外国人数 | 比率 |
| 104,055人 | 2,360人 | 2.27% |

大阪府北西部に位置する池田市は、人口約10万4千人、面積22.14km²の都市です。大阪国際空港を擁する交通の要衝でありながら、五月山や猪名川などの豊かな自然にも恵まれています。

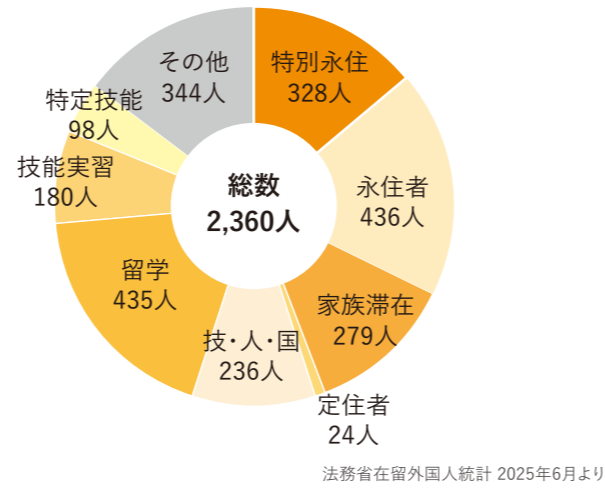
市政では「THE GOOD LIFE IKEDA」をスローガンに掲げ、特に子育て支援の充実や教育環境の整備に注力しています。

日本初の郊外住宅開発地としての歴史と、先進的な取組みが調和したまちです。

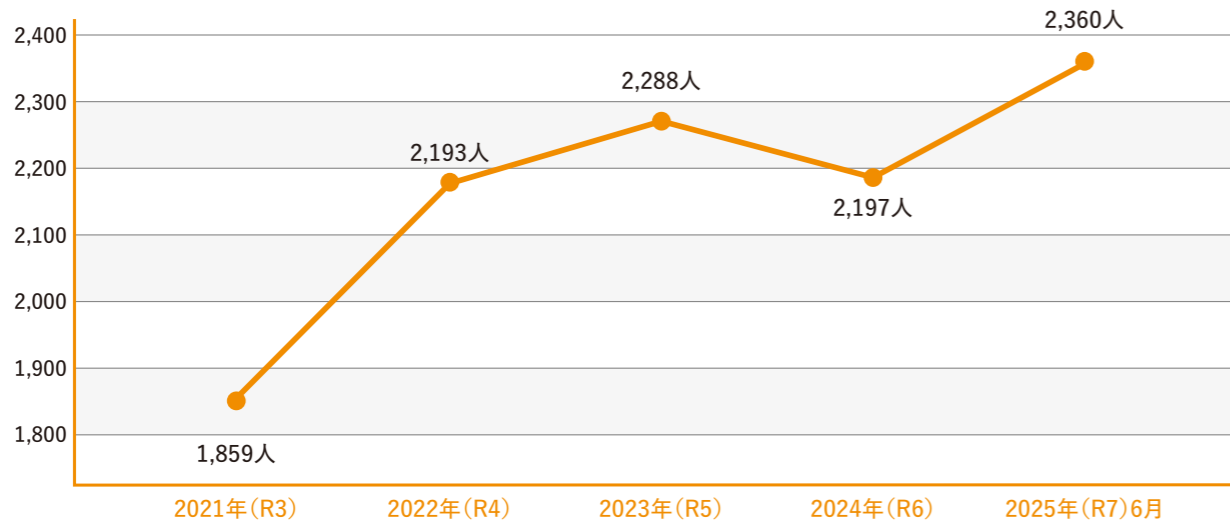


池田市の特徴

介護福祉などの分野を学ぶ「留学」や、企業などで働く「技能実習」など、比較的若い世代の就学および就労層が目立ちます。長く定住する層よりも、明確な目的を持って滞在する層が地域行事などに参加し、生活している姿が見受けられるのが特徴です。



外国人数推移データ



01 福祉

地域での見守りと交流

福祉部 高齢・福祉総務課、社会福祉法人 池田市社会福祉協議会

福祉部 高齢・福祉総務課

地域の見守りと実態把握

高齢福祉サービスの提供や社会福祉協議会への補助金交付、民生委員・児童委員の事務局業務を担当しています。また、市内11校区において、176人(定員)の民生委員・児童委員が活動しています。民生委員・児童委員からの報告によると、コンビニではミャンマーやインドネシア出身の外国人が多く働いており、紹介を通じて従業員が増えている状況です。コンビニで働いている外国人従業員の地域行事への参加は未経験です。一方、別の地区では、介護福祉を

学ぶ学校に100人以上の外国人学生が在籍しており、地域の祭りや防災活動などの行事に学校として積極的に参加の機会を提供しています。また、子ども食堂では台湾出身者から進路相談を受けたことがあったり、放課後の居場所事業を外国籍の方が担っている事例もあったり、外国人保護者が学校行事や地域の祭りに参加している状況も報告されています。

社会福祉法人 池田市社会福祉協議会

福祉ネットワークの充実

池田市では自治会の加入率が約30%と低く、石橋駅周辺では自治会がない地域も多い一方、市内11エリア(概ね小学校区)ごとに設置された「地区福祉委員会」が地域活動の中心的な役割を果たしています。社会福祉協議会のボランティアセンター登録グループによっては、週1回90分のマンツーマンによる日本語学習支援を行っているところがあり、近年は学習希望者が増加しています。また、介護士として働く外国人のための交流会や支援を行う団体もあります。

社会福祉法人
池田市社会福祉協議会



働く外国人のための交流会

02 多文化

多文化共生社会の推進

市民活動部 人権・文化国際課

市民活動部 人権・文化国際課

市の直営事業による包括的サポート

池田市では国際交流協会を設置せず、市が直接多文化共生事業を行っているのが特徴です。独立した指針は策定していませんが、市

の総合計画に「多文化共生社会づくり」を位置づけ、計画的に取り組むを進めています。

1 初期接点の重視と情報発信

転入してきた外国人全員に対し、日本語教室や防災、相談窓口などの情報をまとめた「ウェルカムキット」を窓口で手渡しています。これは約20年続く取組みで、封筒に母語のシールを貼って渡すなど、初期の接点づくりを重視しています。

また、市広報誌の一部を多言語化した情報誌を2か月に1回発行し、日本語カフェ参加者への配布やHP・SNSでの発信に加え、口コミによる広がり重視しています。



6言語で発行されている情報誌

2 「にほんごカフェ」でつながる、外国人と市民の交流の輪

「にほんごカフェ」で学ぶ外国人市民を講師としてさまざまな事業を実施し、外国人と市民が交流できる機会を設けています。オープンスペースのキッチンでの料理講座、語学・文化講座のほか、市内の小・中学校からの依頼を受けて、多文化講座にも協力しています。



料理講座の様子

池田市ダイバーシティセンター



03 まちづくり

市民自治によるまちづくりの視点から

NPO法人 トアエル (池田市立市民交流活動センター指定管理者)、市民の声、外国人住民の声

NPO法人 トアエル (池田市立市民交流活動センター指定管理者)

大阪大学が周辺市と連携し、地域社会との連携を活かした「大阪大学留学生ホストファミリープログラム」(略称/OHP)を実施しています。対象は大阪大学に学ぶ外国人留学生で、大学近郊の地域の市民ボランティアに協力いただき、日本の生活を体験し、お互いの文化を学び合う交流プログラムです。池田市では当法人が協力団体として、ホストファミリーとのつなぎ役を務めています。センターを利用する市民公益活動団体としては、インドネシア人労働者の生活を豊かに楽しくするために支える特定非営利活動法人

スポイの会があります。地域や市民公益活動団体と連携して、多文化共生をテーマに、外国人労働者やその家族、地域の高齢者や障害者、子どもたちが孤立せずにつながる“みんなの居場所”を目指すプロジェクト「ほほえみ食堂アジアン」に取り組んでいます。また、池田日本語ボランティア友の会では、地域で暮らす外国人住民が安心して生活し、社会とつながることを願う「日本語支援」を通して地域との交流を図っています。

NPO法人 トアエル



池田市立市民交流活動センター



市民の声

自治会加入につながる日常的なつながり

馬坂哲平さん(自治会長)

自治会長を務めている地域では、UR団地の建て替えにより高齢者の比率が高い一方、中国・韓国・アメリカなど多様な国籍の外国人も居住しています。地域行事としては、盆踊りや小学生による太鼓演奏を行う秋祭りなどの恒例行事が継続的に実施しています。また、ふれあい喫茶「くつろぎ亭」を毎週木曜日に10年以上開催しており、主に常連の高齢者が参加する地域の交流拠点となっています。

自治会では、自治会ニュースの定期的な発行や玄関と集合ポストの名札の無料作成や来客用駐車場の管理といった日常的業務を通じて住民と顔見知りになるきっかけになっています。これからは多文化共生という新しい目標にも挑戦して外国人住民もいっしょになって自治会活動を盛り上げていければと考えています。

外国人住民の声

言語のサポートがあれば地域活動に参加したい

Lina Mustafar リナ ムスタファさん(マレーシア出身 日本で暮らして4年)

来日当初は言葉の不安がありましたが、市役所の英語対応に助けられました。小学校では支援スタッフや教員の丁寧な対応で子どもが学校生活に順応できましたが、中学校の配布物は内容が難しく、翻訳ツールが欠かせません。地域行事には参加しており、近隣住民

から生活の助言をもらうなど関係は良好です。将来的には英語を生かしたボランティアに関心がありますが、PTA活動などは言語面の不安があり、サポートがあれば参加したいと考えています。